伊敷地区

旧島津氏玉里邸長屋門

桂庵墓　▶けいあんぼ

国指定／記念物／史跡　【MAP F-8】

朱子学を正しい儒学とし，薩南学派の始祖となる

桂庵玄樹は応永34年（1427）周防（山口県）に生まれ，41歳のとき，遣明使として明に渡り，７年間朱子学を学んだあと帰国，文明10年（1478）島津家11代当主忠昌の招きで鹿児島入りした。

鹿児島では，清水町に桂樹院を建て，島津氏やその家来，僧たちに朱子学や禅学を教えた。

薩摩では，桂庵の教えを受け多くのすぐれた門人が育ち，のちには薩南学派という朱子学の学派もでき，多くの人が朱子学を学んだ。江戸時代の初期には，桂庵の教えは島津家の政治･外交の顧問であった大龍寺の住職南浦文之によって広められた。また桂庵は，文明13年（1481）に，「大学章句」という朱子学の本を日本で最初に出版し，薩摩の文化の向上につくした。

その後，桂庵は，飫肥（宮崎県）の安国寺で教えたり，京都の建仁寺の139第管主になったりした。晩年には，再び鹿児島に来て，伊敷の東帰庵（現在墓があるところ）に住んでいたが，永正５年（1508），81歳で亡くなった。

昭和11年（1936），国の記念物（史跡）に指定された。

●所在地／鹿児島市伊敷2丁目（桂庵公園内）　●交　通／市営 伊敷仮屋バス停　●駐車場／無

旧島津氏玉里邸庭園　▶きゅうしまづしたまざとていていえん

国指定／記念物／名勝　【MAP G-8】

南九州を代表する江戸末期の大名庭園

玉里邸は，島津家27代当主斉興が天保6年（1835）に造営した大名庭園で，28代当主斉彬に藩主の地位を譲（ゆず）り隠居（いんきょ）したところである。

斉興の没後，養女勝姫が居住していたが，明治10年（1877）西南戦争で焼失，その時，二の丸（鹿児島城）も焼けたので島津久光が改築し移り住んだ。

明治23年（1890）から久光の子忠済の別邸になっていたが，昭和20年（1945）の戦災により本邸は再び焼けてしまい，茶室，長屋門，庭園だけが残った。

庭園は旧邸宅書院からの鑑賞を意図して作られた上御庭（うえおにわ）と，周辺を歩きながら庭園全体を鑑賞できる回遊式の下御庭（したおにわ）の二つからなる庭園で，地域独特の材料，意匠が用いられている，南九州を代表する江戸末期の大名庭園である。

平成19年（2007），国の記念物（名勝）に指定された。

●所在地／鹿児島市玉里町（鹿児島女子高校隣）　●交　通／市営 女子高前バス停　●駐車場／有

旧島津氏玉里邸長屋門　▶きゅうしまづしたまざとていながやもん

有形文化財／建造物　【MAP G-8】

玉里邸創建当時からの最も古い建物であるともいわれる長屋門は，黒門が造営され，正門としての役目を終えるが，その後も長く創建当時の位置に残されていた。

昭和60年（1985）新校舎建築のため，長屋の一部は解体されたが，門と長屋の一部は向きを180度回転して，現在の位置に移された。現在は鹿児島女子高校の資料室となっている。

●所在地／鹿児島市玉里町（鹿児島女子高校内）　●交　通／市営 玉里福祉館前バス停　●駐車場／無

織部型燈籠　▶おりべがたとうろう

有形文化財／建造物　【MAP G-8】

玉里邸庭園内にはいくつかの燈籠があるが，この燈籠は島津家27代当主斉興の養女・勝姫が，ひそかに拝んだといわれており，形・デザインともに大変変わっていて，珍（めず）しいものとされている。ただ，はじめからこの場所にあったかどうかは，はっきりしていない。

●所在地／鹿児島市玉里町（旧島津氏玉里邸庭園内）　●交　通／市営 女子高前バス停　●駐車場／有

水道高桝　▶すいどうたかます

有形文化財／建造物　【MAP G-8】

玉里邸庭園の東方約540mにある涌水（ゆうすい）を水源とし，石管を用いて自然流下と圧力給水方式による水道施設としては，当時全国唯一であった。

高桝は，水圧の調整や水の分配の役割があった。

●所在地／鹿児島市玉里町（旧島津氏玉里邸庭園内）　●交　通／市営 女子高前バス停　●駐車場／有

坐（座）禅石　▶ざぜんいし

市指定／記念物／史跡　【MAP G-9】

西郷や大久保ら若き志士が日夜座禅を組んだ

護国神社から城山団地の坂道を約200mのぼった所に座禅の森があり，西郷隆盛や大久保利通が青年時代，座禅をくみ，修養をつんだという坐（座）禅石が残っている。

石は現在の国道３号沿いの誓光寺の庭にあったもので，西郷，大久保をはじめ，当時の若き志士たちが誓光寺の住職であった円了無参の教えを受け，日夜座禅し，修行に励んだという。

昭和52年（1977），鹿児島市の記念物（史跡）に指定された。

●所在地／鹿児島市城山1丁目(座禅石公園内)　●交　通／市営 座禅石公園バス停　●駐車場／無

鹿児島県立鹿児島工業高等学校大煙突　▶かごしまけんりつかごしまこうぎょうこうとうがっこうだいえんとつ

国登録／有形文化財／建造物　【MAP G-9】

構築技術，意匠ともに素晴らしい18mの大煙突

鹿児島工業高等学校機械科で，使用する工作機械を稼働させるためのスチームボイラーとともに，大正９年（1920）に建設された。高さ18mの煉瓦造煙突で，八角形の基壇部分は堅牢なイギリス積み，塔身の本体部分は小口積みとして構築された。

ボイラーは，鉄製で，直径1.2m，長さ4.5mの円筒形である。

構築技術の見事さ，保存状態のよさ，附属しているボイラーも現存していることから，学校や地域の景観に欠かせない存在となっている。

平成16年（2004），国の有形文化財（建造物）に登録された。

●所在地／鹿児島市草牟田2丁目(鹿児島工業高校内)　●交　通／市営 護国神社前バス停　●駐車場／無

護国神社　▶ごこくじんじゃ

有形文化財／建造物　【MAP G-9】

祖国のために命を捧げた７万７千余の英霊を祭る

この神社は慶応４年（1868）京都鳥羽伏見の戦いでの戦功に対し，明治天皇から金500両をもらい受け，戦没者の霊を弔うため，山之口馬場の近く（現在の松原神社の近く）に靖献霊社を建てたことに始まる。

その後照国神社の横に移され，名称も靖献神社，招魂社と変えられ，明治10年（1877）の西南戦争で焼失したが，すぐ再建された。その後，昭和14年（1939）鹿児島県護国神社と名称がかわり，昭和16年（1941）現在地に移転。昭和23年（1948）社殿が完成した。

現在，安政の大獄･桜田門外の変･寺田屋事件･薩英･戊辰･西南各戦争をはじめ，日清･日露･太平洋戦争などの犠牲者その他警察官，消防職員，自衛隊殉職者等，77000余の霊が祭られており，毎年８月に大祭が行われる。

●所在地／鹿児島市草牟田2丁目　●交　通／市営 工業高校前バス停　●駐車場／有

島津久光国葬道路　▶しまづひさみつこくそうどうろ

記念物／史跡　【MAP G-9】

島津家29代当主忠義の父で，国父とよばれた島津久光の国葬のため，玉里邸の黒門から国道まで新しく道路がつくられた。

その道路を国葬道路とよび，現在，県立鹿児島工業高校門塀近くの道路上に記念碑が立っている。

●所在地／鹿児島市草牟田2丁目(県立鹿児島工業高校脇)　●交　通／市営 護国神社前バス停　●駐車場／無

鹿児島神社　▶かごしまじんじゃ

有形文化財／建造物　【MAP G-9】

祭神は地主神，海の神として知られる彦火火出見命，豊玉姫命，豊玉彦命，豊受大神の４柱である。例祭は２月28日，10月18日に行われる。

創建された年代ははっきりしない。

●所在地／鹿児島市草牟田2丁目　●交　通／市営 女子高前バス停　●駐車場／有

妙谷寺跡　▶みょうこくじあと

記念物／史跡　【MAP G-8】

妙谷寺は，柱山守棟和尚が開山し，本尊は釈迦如来であった。はじめ上伊敷の不動院にあったものを，島津家16代当主義久がここに移し，義久の菩提寺となった。

現在は，阿弥陀墓地の近くに第11世和尚の墓などの住職の墓や座禅をくんだという「鎖夢屈」の跡が残っている。

また，この地域を門前と呼んでいるが，妙谷寺の門前から来ていると考えられる。

●所在地／鹿児島市下伊敷2丁目　●交　通／市営 旧西高校前バス停　●駐車場／無

伴掾館跡　▶ばんじょうかんあと

記念物／史跡　【MAP G-8】

妙谷寺の裏山あたりにあったといわれているが，今はその跡は残っていない。安和元年（968），伴兼行が薩摩国の総追捕使となり，翌年，鹿児島郡神食村に入った。その頃の伴氏の屋敷跡を伴掾館跡という。

長元９年（1036）には兼行の孫薩摩守兼貞が大隅に移った。以後，伴氏は肝付氏姓を名乗るようになった。

●所在地／鹿児島市下伊敷2丁目　●交　通／市営 旧西高校前バス停　●駐車場／無

伊邇色神社　▶いにしきじんじゃ

有形文化財／建造物　【MAP F-8】

祭神は農業の神といわれている伊邇色命（印色入彦命）である。創立年代ははっきりしないが，三代実録の貞観２年（860）３月の条に「伊邇色神」の名が見える。

また年神（農耕神）を祭ることから，「年の宮」ともよばれていた。伊敷の地名はこの伊邇色が訛ったものであるといわれる。

境内には「明和二年十月二十三日」（明和２年→1765）の銘のある供養塔などがある。

●所在地／鹿児島市下伊敷2丁目　●交　通／市営 岩崎バス停　●駐車場／無

歩兵第45連隊跡　▶ほへいだい45れんたいあと

記念物／史跡　【MAP F-8】

第６師団歩兵第45連隊は明治30年（1897）開設され，日露戦争以降の戦いに参加し，名を知られた。連隊跡は，玉江小から元鹿児島西高校付近で，県立短大のあたりに営門と本部があった。

●所在地／鹿児島市下伊敷1丁目（鹿児島県立短期大学正門）　●交　通／市営 玉江小学校前バス停　●駐車場／有（有料）

南泉院歴代住職の墓　▶なんせんいんれきだいじゅうしょくのはか

市指定／記念物／史跡　【MAP F-8】

藩内有数の天台宗巨刹南泉院の歴代住職が眠る

現在の照国神社のところにあった天台宗南泉院の歴代住職の墓石群である。開山は偏詢周僧正。その墓は上段に，２世から11世までは下段に整然と並んでおり，清掃もゆきとどいて，よく保存されている。墓型は，第１世から９世までは無縫塔で，第10世は五輪塔，第11世は自然石塔である。明治元年（1868），第11世権僧正智融の時に廃寺となったが，自然石塔でできた彼の墓石には，明治41年（1908），90歳の時に記したという彼の経歴が刻まれている。

平成元年（1989），市の記念物（史跡）に指定された。

●所在地／鹿児島市小野3丁目　●交　通／鹿交 小野高山バス停　●駐車場／無

八房神社　▶やつふさじんじゃ

有形文化財／建造物　【MAP E-7】

八房神社は矢上氏が氏神として信仰した神社で，祭神は八幡太郎義家・真田三郎左衛門義家と言われている。境内には，文久３年（1863）６月22日桂氏寄進の献燈や左右大臣像の石祠などの石碑があり，「寛永三年」（1626），「享保十年」（1725），「寛政八年」（1796）などの銘が刻まれている。

●所在地／鹿児島市犬迫町　●交　通／あいばす 八房神社前バス停　●駐車場／無

肥田の田の神　▶ひたのたのかみ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料　【MAP F-7】

寛政十二年銘の浮き彫りされた座像の田の神

住宅の門前のすぐ脇にたっている。高さ150cmの一枚岩を窓状に縁取ってくり抜き，その中に浮き彫りした座像の田の神である。

像の高さ50cmで，大きなコシキのシキをあみだにかぶっている。また，右手に持った杓子を前肩にあて，左手は大きな椀を持ち，手の甲は曲げた膝にのせている。

前面には「寛政十二年」(1800)，「奉寄進此村二才中」の銘が刻まれている。

昭和57年（1982），市の有形民俗文化財（民俗資料）に指定された。

●所在地／鹿児島市伊敷7丁目　●交　通／あいばす 肥田橋バス停　●駐車場／無

新村の田の神　▶しんむらのたのかみ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料　【MAP F-8】

安永七年銘の浮き彫りされた座像の田の神

甲突川の上流，梅ヶ渕橋のたもとにたっている。自然石に浮き彫りした座像の田の神である。石の高さ104cm，像だけの高さ62cmほどで，小さな顔に大きなコシキのシキをかぶっている。顔面や胸部は風化しているが，右手に小さな杓子，左手に椀をもっている。

背面には「布イ故宝冠　碗具指挙　顔面微笑　護持福田　安住此地大神　長産米穀幾萬年　造立　宿　安永七年　戊亥三月吉日　二才中」(安永７年→1778）の銘が刻まれている。

かって石井手用水から水を引き，豊かな水田であったこのあたりは，現在宅地として変わりつつある。

平成元年（1989），市の有形民俗文化財（民俗資料）に指定された。

●所在地／鹿児島市伊敷3丁目　●交　通／市営 梅ヶ渕バス停　●駐車場／無

名突観音像　▶なとつかんのんぞう

記念物／史跡　【MAP F-8】

新村の名突坂の林の奥に4m大の岩壁に1.8mぐらいの仏像が刻み込まれている。梅ヶ渕観音とも呼ばれ，商売繁盛，就職，結婚，進学に霊験あらたかということで年中訪れる人が多い。特に受験期の頃になると合格祈願のため受験生や親子の参詣者が後をたたない。伊敷村誌によると，薩摩の古い石工により刻まれたもので数百年を経たものとある。

●所在地／鹿児島市伊敷町　●交通／国道3号線から肥田橋を渡り1つ目の信号を左折，梅ヶ渕観音入口の小さな路地が見えてくる　●駐車場／有（そば屋左・有料）

横井の野町　▶よこいののまち

記念物／史跡　【MAP D-8】

薩摩街道が横井の三叉路の坂道を過ぎて石谷に広がる台地に至る辺りが藩政時代の鹿児島城下周辺の唯一の野町である。

ここは藩内の野町と違い茶屋主体で，均等に割り付けた間口7間の屋敷であった。

出水筋の上り下りに休憩した場所で，旅人たちの労を癒す場所でもあった。隣接して分祀時期は不明であるが，祭神が天照大神，枚聞神の枚聞神社が作られた。この付近は「おじぞうさあの坂」とも呼んでいるが，枚聞神社境内にある六地蔵塔に由来するといい，神社に祭る楠木正成の馬を祭る馬頭観音や疱瘡神を合祀することから，遠近在から馬をひいて参拝する人で賑わったという。

また，境内には「安永六年丁酉十月三日奉寄進　鹿児島」（安永6年→1777）銘の手水石が置かれている。

●所在地／鹿児島市犬迫町　●交　通／あいばす 横井バス停　●駐車場／無

木村探元の墓　▶きむらたんげんのはか

記念物／史跡　【MAP E-8】

小野町幸加木神社近くの森の中に，木村探元をはじめとする木村家代々の墓がある。木村探元時経は，延宝7年（1679）千石馬場の甲突川畔（現在の平田橋のたもと）に生まれ，25歳のとき江戸に出て狩野探信の門人となり，狩野派の画法を学んだ。その後，鹿児島本城や京都近衛家の障壁画などを描き，「見事探元」とたたえられ，後世称賛の代名詞として使われた。また，日本画ばかりでなく，和歌・茶道・書道にもすぐれ，晩年には雪舟に深く心酔し，狩野派の絵に雪舟の山水画を取り入れたという。

●所在地／鹿児島市小野3丁目　●交　通／鹿交 幸加木バス停　●駐車場／無

幸加木神社　▶こうかきじんじゃ

有形文化財／建造物　【MAP E-8】

甲突川の支流の幸加木川の上流の大きな岩が折り重なった所に，木村探元の祖先で北条高時の弟，泰家の三世孫の木村時勝の創建による幸加木権現廟（幸加木神社）がある。祭神は伊弉諾命，速玉男命，事解男命の3座で棟札には「高鍵」或いは「高賀木」とも記してあるという。左右に小さな滝があり，境内には水神や仏像も祭られている。

この小野から切り出される小野石は上質とされ，石橋などに用いられた。また石工も多く出て，磯の仙巌園などの石造物も手がけたと言われている。

●所在地／鹿児島市小野3丁目　●交　通／鹿交 幸加木バス停　●駐車場／無

六地蔵尊　▶ろくじぞうそん

有形民俗文化財／民俗資料　【MAP F-8】

島津家15代当主貴久が，永禄3年（1560）頃敵味方の戦死者の霊を弔うために，六角の面にそれぞれ１体の地蔵尊を刻んだ石塔を鹿児島･宮崎両県下に50基余建てた。

貴久は当主になった翌年，9代当主忠国の弟で出水に封ぜられた薩州家の子孫，島津実久が謀反を起こした時，清水城を出て小野の園田家に救いを求め，聖宮にかくまわれ難を免れたことがある。この事から六地蔵尊の1基が小野の中央部鶴之村に建立されたと考えられる。また近くの聖宮入口に別の１基がある。

●所在地／鹿児島市小野3丁目　●交　通／鹿交 伊敷小野バス停　●駐車場／無

聖宮の六地蔵塔　▶ひじりみやのろくじぞうとう

有形民俗文化財／民俗資料　【MAP F-9】

甲突川の支流の幸加木川の右岸の山すそに，小野の六地蔵と同様な高さ約80㎝の六地蔵塔が置かれている。この地は，応永11年（1404）島津家8代当主久豊から園田氏が拝領してから代々園田氏の屋敷となったところであり，薩州家島津実久の軍勢に追われた島津家15代当主貴久をかくまった園田清左衛門実朝の屋敷でもある。

●所在地／鹿児島市小野4丁目　●交　通／鹿交 伊敷小野バス停　●駐車場／無

石井手用水跡　▶いしいでようすいあと

記念物／史跡　【MAP F-7】

文化３年（1806），薩摩藩では新田開発により当時の財政難を切り抜けるため，甲突川の飯山橋から上流約200mのところに堰を築き，用水路を開いた。

用水路（幅3.3m，水深1.7m，長さ6.5km）は甲突川右岸の山すそにそって伊敷町肥田，小野町を経て永吉･原良･武に至り約120haの新田のかんがい用水として利用されたという。現在は宅地化により各所に水門･水神碑や用水路にかけられた太鼓橋を残すだけで側溝や下水溝となっている。現在，石井手の堰は井手の長さ40数m，高さ２mで，壊れかかった石だたみと巨岩が点在するだけであるが，白い瀬波と水音が当時のおもかげをとどめている。

●所在地／鹿児島市伊敷7丁目　●交　通／あいばす 飯山バス停　●駐車場／無

中福良の田の神　▶なかふくらのたのかみ

有形民俗文化財／民俗資料　【MAP F-8】

幸加木川沿いにある住宅角の三角地にたっている。高さ約120cmの自然石の片面をつかって浮き彫りした立像の田の神である。横から見るとコシキのシキはひさしのような形になっている。右手に杓子を持ち，左手は欠けているのでよく分からないが，椀を腰にかかえた恰好ではなかったかと推察される。素朴ではあるが，袴姿の像で，彫りも立派である。年代は分からない。

●所在地／鹿児島市小野4丁目　●交　通／鹿交 伊敷小野バス停　●駐車場／無

永吉水車館機織場跡　▶ながよしすいしゃかんはたおりばあと

記念物／史跡　【MAP F-9】

玉江橋を渡った永吉団地入り口に，記念碑が建っている。ここは水車館があったところである。島津家28代当主斉彬は，藩の船の帆に使う布を藩内でまかなうため，永吉村と田上村の２ヶ所に，水車機織場をつくった。永吉村の水車館は，石井手用水の水を使って運転され，磯に洋式の機械紡績工場ができるまでの10年間運転を続けた。

●所在地／鹿児島市永吉2丁目　●交　通／市営 ハートピアかごしまバス停　●駐車場／無

皆与志の釈迦山摩崖仏　▶みなよしのしゃかやままがいぶつ

記念物／史跡　【MAP F-5】

寛応四年，庚申供養のために彫られた３基の摩崖仏

比志島川を望む南面する山すそに釈迦三尊，地蔵菩薩，月輪菩薩を内掘りに彫った３基の摩崖仏がある。

釈迦三尊の磨崖仏は，横２m，縦３mの岩に家形の屋根を掘り出した中には中尊は高さ50cm，脇侍は35cmの釈迦像を浮き彫りしている。

月輪菩薩磨崖仏は，横160cm，縦120cmの岩に直径38cmの月輪，直径28cmの日輪，その下に蓮と思われる物を大振りに浮き彫りしている。

地蔵菩薩は，横５m，縦３mの岩に高さ66cmの地蔵菩薩を丁寧に浮き彫りし，その下に「庚申供養のため承応４年（1655）庄屋の舞田助左衛門らが作った」との主旨の彫り込みがある。

●所在地／鹿児島市皆与志町　●交　通／あいばす 宮ヶ平バス停　●駐車場／無

川路利良誕生地　▶かわじとしよしたんじょうち

記念物／史跡　【MAP F-5】

日本の警察制度をつくった初代警視庁長官

わが国警察制度の創始者である川路利良は，天保5年（1834）皆与志町比志島に生まれた。16歳の時，初めて藩に出仕して兵具方与力附となった。17歳で御小姓組に昇進し，一家は鷹師馬場（現在の薬師町）に移った。戊辰戦争で功をたて兵具奉行となったが，この時西郷隆盛に見込まれた。明治4年（1871），御親兵（のちの近衛兵）として上京，府権典事となり，羅卒制度（警察のはじまり）をつくり上げ，羅卒総長，さらに司法省警保助兼大警視に任ぜられ，翌年，警察制度調査のため欧州に渡った。明治6年（1873）帰国，警察制度の改革を建議し，翌年，警視庁の初代長官となった。しかし明治10年（1877），西南戦争では西郷を敵に回し，陸軍少将大警視として官軍に加わり鹿児島の人々のいかりをかった。

明治12年（1879），再び欧州に渡ったが，パリで病気になり帰国，同年45歳で亡くなった。

●所在地／鹿児島市皆与志町　●交　通／あいばす 大警視バス停　●駐車場／無

比志島城跡　▶ひしじまじょうあと

記念物／史跡　【MAP F-5】

皆与志町中組地区の前方中央丘陵の上あたりが比志島城跡で，空堀・土塁などが現在も残っている。寛元年間（1243～1247）頃から比志島氏代々の居城であった。建武３年（1336）には矢上高純が当時の城主であった比志島範平を攻めたが，果たせなかった。

また，文明９年（1477）には島津季久が島津家11代当主忠昌にそむき，比志島義重を攻めたが，城の守りは堅く落ちなかった。城は天正15年（1587）比志島義基の代まで続いた。

●所在地／鹿児島市皆与志町　●駐車場／無

孝子碑　▶こうしひ

記念物／史跡　【MAP D-6】

天明元年（1781）のころ，太郎八（９歳の男の子）とまん亀（７歳の女の子）の２人は，病気で倒れて歩くことも不自由になった母親のそばに付き添い，母の気分の悪いときは体をさすり，薬を口に含んで母に与えるなど，６年間も心をつくして面倒をみたという。この話を聞いた当時の殿様は，たいへん喜ばれ，ほうびとして２人にたくさんの米とお金をくださったといわれる。この碑の裏には，病床の母へ心をつくした兄妹の様子や，ほうびをくださった殿様のことが，詳しく書かれている。

●所在地／鹿児島市小山田町（小山田小学校内）　●交　通／あいばす 小山田小前（上原橋）バス停　●駐車場／無

長伝寺跡　▶ちょうでんじあと

記念物／史跡　【MAP F-5】

浄光明寺の末寺で創建年代は不明である。寺の中興の祖は，浄光明寺の16世然覚阿和尚といわれているが中興の年代も定かではない。この地は比志島氏の支配地であることから，比志島氏の菩提を弔うために田を寄進したという。現在寺跡は民家となり，僧侶墓が名残りをとどめている。

●所在地／鹿児島市皆与志町　●交　通／いわさき 中組バス停　●駐車場／無

高城跡　▶たかじょうあと

記念物／史跡　【MAP D-6】

場所は塚田橋の西方の丘で，建武年間（1334 ～ 1338北朝）に比志島孫太郎忠範の二男・小山田彦五郎景範がここに城をかまえた。応永21年（1414）には伊集院城主頼久との間で合戦があり，双方とも多くの死傷者を出したといわれる。

●所在地／鹿児島市小山田町　●交　通／あいばす 塚田バス停　●駐車場／無

小山田発電所　▶こやまだはつでんしょ

記念物／史跡　【MAP D-6】

明治31年（1898）に九州で最初の水力発電所が小山田に建設された。当時は六日町（現在の山下町・名山町）や中町などの市中心部へ送電され，大正元年（1912）に開通した電車（鹿児島電気軌道株式会社）の電力もここから供給（きょうきゅう）された。

●所在地／鹿児島市小山田町　●交　通／あいばす 名越バス停　●駐車場／無

比志島薬師如来像　▶ひしじまやくしにょらいぞう

有形民俗文化財／民俗資料　【MAP E-5】

皆与志町下公民館の一角に高さ40cm，顔面もはっきりしない寄せ木造りの如来像が安置されている。由来ははっきりしないが，比志島氏がこの地域を治めていた時代，悪病から身を守るために信仰され始めたという。地域の人たちは「ニョライサー」と呼び，イボ取りに御利益があるといわれる。

●所在地／鹿児島市皆与志町（皆与志町下公民館内）　●交　通／あいばす 三重岳入口バス停　●駐車場／無

中組の田の神　▶なかぐみのたのかみ

有形民俗文化財／民俗資料　【MAP F-5】

像の高さ70cmで頭には丁寧（ていねい）に編（あ）まれた大きめのコシキのシキをかぶり，左手には杓子（しゃくし），右手には椀（わん）をもつ田の神舞神職型立像の田の神である。顔の表情も柔和（にゅうわ）でふくよかである。背面に「享保十八年　十一月十二日」（享保18年→1733）と年号が彫られている。

●所在地／鹿児島市皆与志町（小鷹神社内）　●交　通／いわさき 中組バス停　●駐車場／無

小鷹神社　▶こだかじんじゃ

有形文化財／建造物　【MAP F-5】

比志島義弘が天文８年（1539）に，滋賀県大津市坂本にある日吉大社の分霊を領地の塚谷の白木山，中組の谷川原，下の菖蒲谷に分祀して創建した。

祭神は大山咋神，大己貴神，精矛巌健雄命であるが，岩剣城の戦いで戦死した義弘も，同じくこの合戦で戦死した家臣10人と共に祭られている。現在は祇園社，天神社，諏訪社，妙見社なども合祀されている。

●所在地／鹿児島市皆与志町　●交　通／いわさき 中組バス停　●駐車場／無

皆与志の庚申供養塔　▶みなよしのこうしんくようとう

有形民俗文化財／民俗資料　【MAP F-5】

小鷹神社境内にあり，高さ96cmの自然石の表面を平らに削りだした面に「奉為庚申供養造立也□二才中」，両脇に「享保十乙巳年　三月十三日」（享保10年→1725）と刻んである。

●所在地／鹿児島市皆与志町　●交　通／いわさき 中組バス停　●駐車場／無

皆与志の六地蔵塔　▶みなよしのろくじぞうとう

有形民俗文化財／民俗資料　【MAP F-5】

基礎の像，六地蔵とも風化が少なく，高さ３m余の立派な六地蔵塔である。幢身の正面には，「花心琴円庵主　寛永十五歳二月十三」（寛永15年→1638）と刻銘されている。

●所在地／鹿児島市皆与志町（西本願寺鹿児島別院皆与志出張所敷地内）　●交　通／いわさき 大警視バス停　●駐車場／無

皆房上の諏訪神社　▶かいぼううえのすわじんじゃ

有形文化財／建造物　【MAP F-6】

神通力をもった山伏である比志島家分家の川田駿河守義朗が山伏姿で全国を廻った時，広島県の厳島神社とともに，長野県の諏訪神社を義朗の父が支配していた皆房に勧請したことに始まるという。その年代は戦国末期とも言われているが定かではない。

●所在地／鹿児島市皆与志町　●交　通／いわさき 皆房公民館バス停　●駐車場／スペース有

皆房上の田の神　▶かいぼううえのたのかみ

有形民俗文化財／民俗資料　【MAP F-6】

甲突川水系の小川により開けた谷添いの水田を見渡す所に高さ58cmの田の神の座像がある。広いコシキのシキをかぶり，左手には杓子を持っているが，右手の持ち物は欠けており不明である。しゃがみ込んだ状態の珍しい田の神像である。

●所在地／鹿児島市皆与志町　●交　通／あいばす 岩下バス停　●駐車場／無

花野の庚申供養塔　▶けののこうしんくようとう

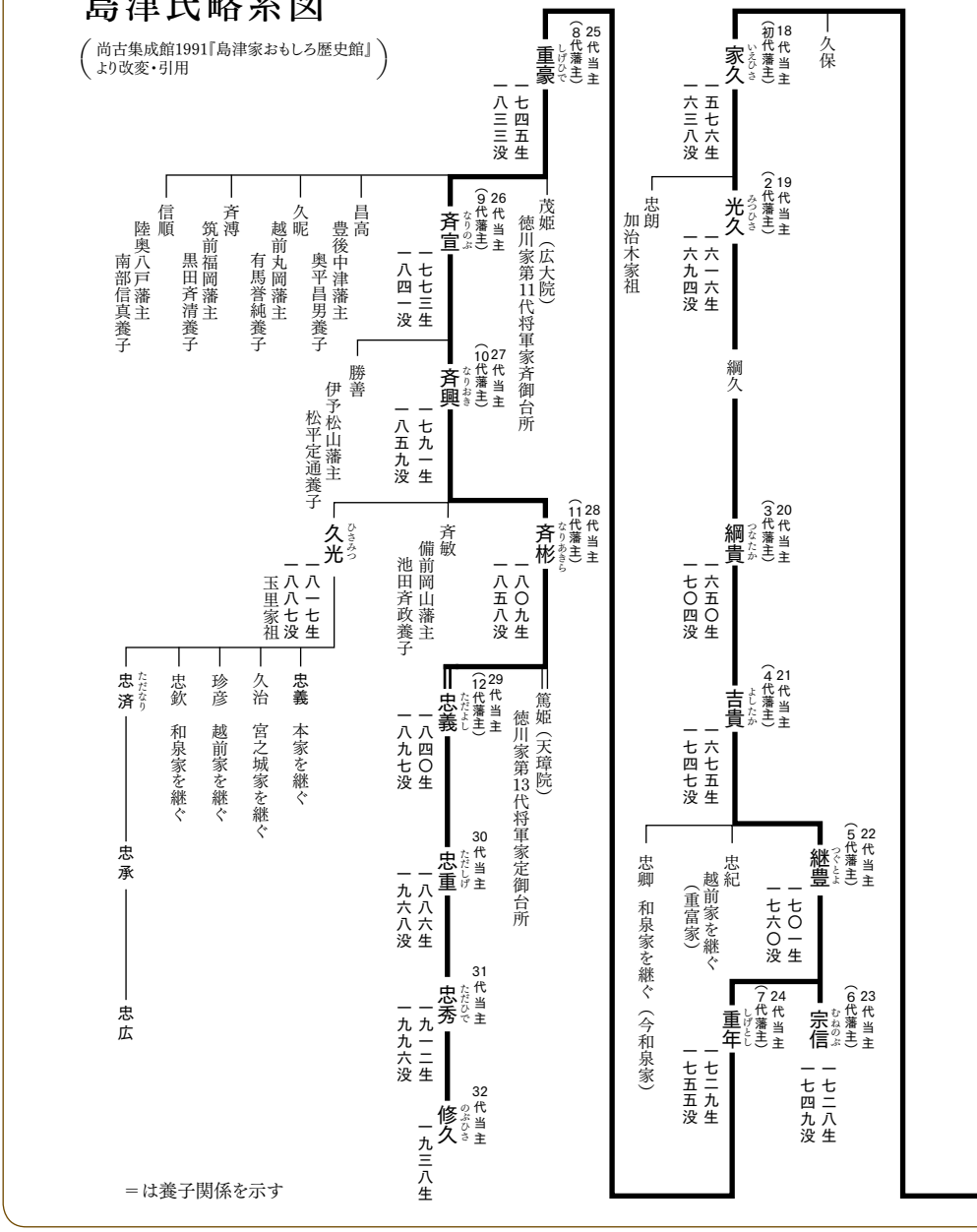
有形民俗文化財／民俗資料　【MAP F-6】

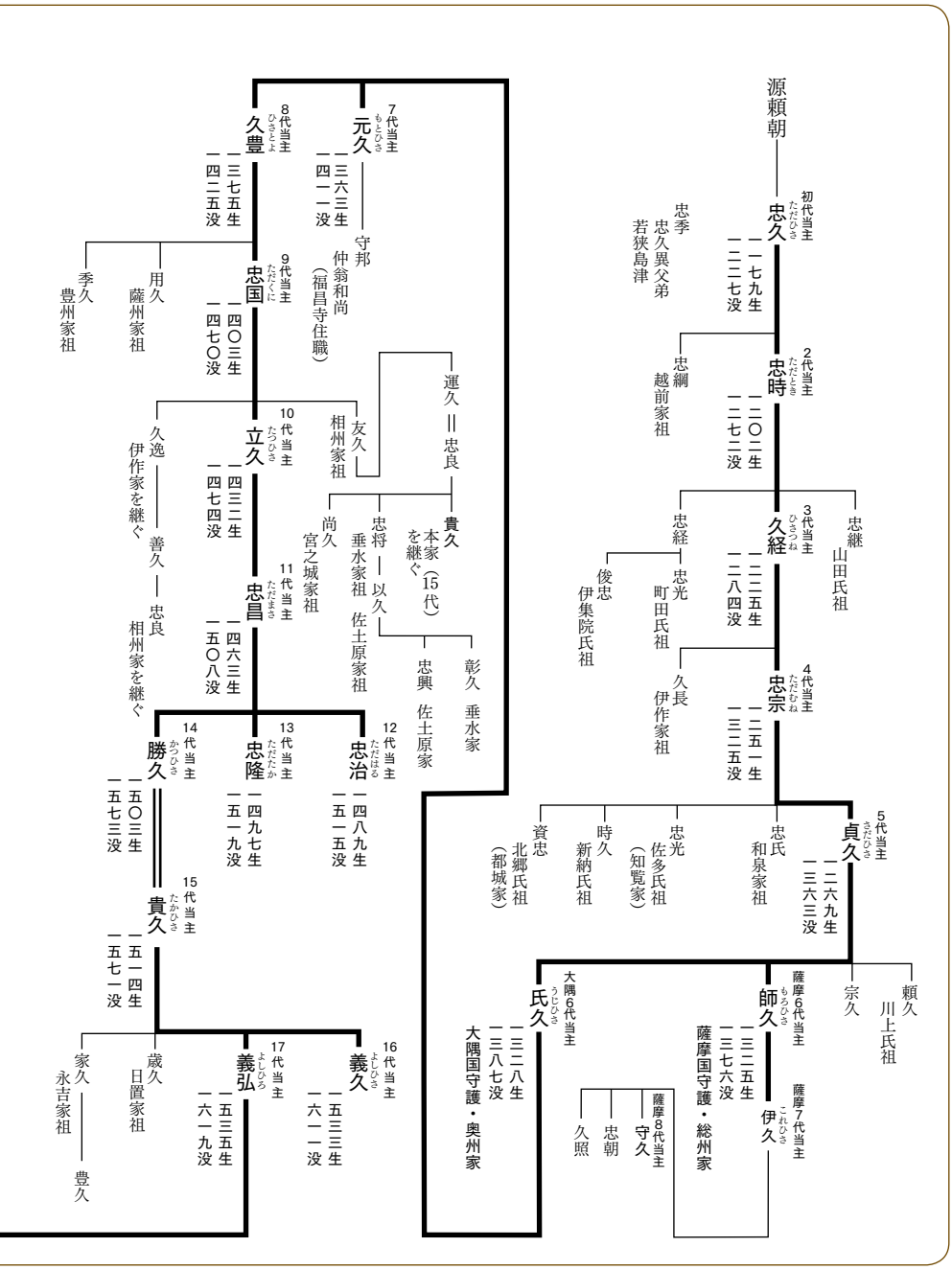
花野南方神社境内にあり，自然石を平らにした面を正面とし，その中心に「奉寄進庚申□□」，右側に年号，左側に「福永□五代□」とある。造立年代は「延」と「午年二月五日」と読めるが詳細は不明である。碑の左右側面には約50名程の氏名が彫り込まれている。

●所在地／鹿児島市岡之原町　●交　通／あいばす 花ノ三文字南バス停　●駐車場／無

島津氏略系図

（尚古集成館1991『島津家おもしろ歴史館』より改変・引用）




源頼朝
初代当主 忠久（ただひさ） 一一七九生 一二二七没
忠季 忠久異父弟 若狭島津
2代当主 忠時（ただとき） 一二〇二生 一二七二没
忠綱 越前家祖
3代当主 久経（ひさつね） 一二二五生 一二八四没
忠継 山田氏祖
忠経 忠光 町田氏祖
俊忠 伊集院氏祖
久長 伊作家祖
4代当主 忠宗（ただむね） 一二五一生 一三二五没
5代当主 貞久（さだひさ） 一二六九生 一三六三没
忠氏 和泉家祖
忠光 佐多氏祖（知覧家）
時久 新納氏祖
資忠 北郷氏祖（都城家）
頼久 川上氏祖
宗久
薩摩6代当主 師久（もろひさ） 一三二五生 一三七六没 薩摩国守護・総州家
薩摩7代当主 伊久（これひさ）
薩摩8代当主 守久
忠朝
久照
大隅6代当主 氏久（うじひさ） 一三二八生 一三八七没 大隅国守護・奥州家
7代当主 元久（もとひさ） 一三六三生 一四一一没
守邦 仲翁和尚（福昌寺住職）
8代当主 久豊（ひさとよ） 一三七五生 一四二五没
9代当主 忠国（ただくに） 一四〇三生 一四七〇没
季久 豊州家祖
用久 薩州家祖
友久 相州家祖
運久 ＝ 忠良
貴久 本家（15代）を継ぐ
尚久 宮之城家祖
忠将 ― 以久 垂水家祖 佐土原家祖
彰久 垂水家
忠興 佐土原家
10代当主 立久（たつひさ） 一四三二生 一四七四没
久逸 伊作家を継ぐ ― 善久 ― 忠良 相州家を継ぐ
11代当主 忠昌（ただまさ） 一四六三生 一五〇八没
12代当主 忠治（ただはる） 一四八九生 一五一五没
13代当主 忠隆（ただたか） 一四九七生 一五一九没
14代当主 勝久（かつひさ） 一五〇三生 一五七三没
15代当主 貴久（たかひさ） 一五一四生 一五七一没
16代当主 義久（よしひさ） 一五三三生 一六一一没
17代当主 義弘（よしひろ） 一五三五生 一六一九没
歳久 日置家祖
家久 永吉家祖
豊久

コラム

中世の山城

城郭形式のひとつで主に鎌倉時代から安土・桃山時代にかけての約400年の中世に造られた。鹿児島県内では千か所余り（鹿児島市内では61か所）が知られている。

山城は河川や山の地形を利用して，頂上や尾根の部分に段状に大小の平坦地をつくって曲輪（くるわ）とし，曲輪と曲輪との間には，侵食して出来（でき）た谷や地業（ちぎょう）で作られた空堀（からぼり）を配し，曲輪には土を帯状に盛り上げて作った土塁（どるい）などで城砦（じょうさい）をより強固にして，合戦など非常時の際の拠点とした。

この山城が盛んに造られたのは，地元の郡司・郷司，東国から下向してきた御家人・地頭たちの覇権（はけん）争いが激しかった鎌倉時代から南北朝時代であった。

これらの山城を拠点とした合戦は，東福寺城（清水町）で康永2年（1343）にあった鹿児島郡司の矢上氏の一族の長谷場氏と島津家5代当主貞久との合戦，また石谷城（石谷町）で天文5年（1536）にあった島津家14代当主勝久の跡目（あとめ）争いで出水の薩州家の島津実久と伊作の相州家島津忠良（日新斎）・貴久親子との覇権争いなどが知られている。

また，川上城跡（川上町）や苦辛（くらら）城跡（山田町）などの発掘調査によれば，曲輪や土塁，空堀，掘立柱建物跡，かまど跡などの遺構や青磁，白磁，青花などの碗（わん），皿などの中国産の陶磁器のほか土師器（はじき），瓦器の皿や碗などの国産の陶磁器なども出土している。

これらの山城も中世から近世に移るに従って山城の機能も衰退し，やがて元和（げんな）元年（1615）の一国一城令などもあって廃城となり，多くは山林原野と化していった。

今，この山城を探すとすれば，「ジョウヤマ」などの呼び名で城の名残をとどめたり，春山城跡（春山町）のように「床ノ丸」，「中の丸平」，「火ノ丸」，「馬場」などと小字名として城の存在が残っていたりすることから類推（るいすい）することとなる。

山城は文献資料と共に中世の豪族たちの動きや生活などを探求する一つの材料でもある。

苦辛城跡の復元模型
（ふるさと考古歴史館所蔵）

油須木城縄張図
（南九州城郭談話会2005『南九州城郭研究第三号』より引用）